

# 萩市地域公共交通計画策定にあたり 実施した各種調査結果【概要版】



第2回萩市地域公共交通会議

令和6年9月



# 計画策定にあたり実施した調査

# 調査実施内容

- 市民の移動ニーズや改善点、交通事業者の現況等を把握するため、以下の調査を実施した。

分類	調査項目	調査実施概要	実施状況
移動 ニーズ	1. 市民アンケート	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市内に居住する65歳以上の方を対象に移動実態を調査</li> <li>・ 2,000名を無作為抽出、郵送配布・回収(WEB回答併用)</li> <li>・ バス車内や市報にてWEBによる回答を別途依頼(65歳未満回答可)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 7月1日～7月31日に実施</li> <li>・ 1,116人（郵送回収；1,066人、Web；50人）</li> </ul>
	2. 高校生アンケート	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 萩市及び阿武町の高校（分校含む全4校）への移動ニーズに関するアンケート調査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 7月1日～7月19日に実施に実施</li> <li>・ 回答数：742人</li> </ul>
	3. 中学生保護者アンケート	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市内中学校3年生保護者へのお子様の卒業後の移動に関するアンケート調査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 7月1日～7月19日に実施に実施</li> <li>・ 回答数：168人</li> </ul>
	4. 観光来訪者アンケート	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「萩城跡」「松陰神社」、「萩・明倫学舎」において、観光者へ聞き取りアンケート調査を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 8月3日（土）に実施</li> <li>・ 回答数：203票</li> </ul>
利用 実態	5. 路線バス 利用実態整理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 萩市内完結路線、萩商工高校前～奈古駅前、東萩駅前～津和野BC路線について1日全便乗り込み、利用者に属性や利用実態を確認</li> <li>・ その他路線についてICカードデータ整理等を実施【未】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 7月12日（金）に実施</li> <li>・ 回答数：359票</li> </ul>
事業者 意向	6. 交通事業者 ヒアリング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 交通事業者8社（JR西日本【未】、中国ジェイアールバス、防長交通、石見交通、萩近鉄タクシー、萩第一交通、新日本観光交通、萩海運）へのヒアリング（一部アンケート）調査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 8月2日以降 実施中</li> </ul>
共創	7. 関係部署 ヒアリング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公共交通以外の関連分野（医療、福祉、教育、商業、観光）の関係者へのヒアリング調査を実施し、輸送資源の運行状況や、活用に向けた意向を把握</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 8月19、20日に実施に実施</li> </ul>

# 1. 市民アンケート

---



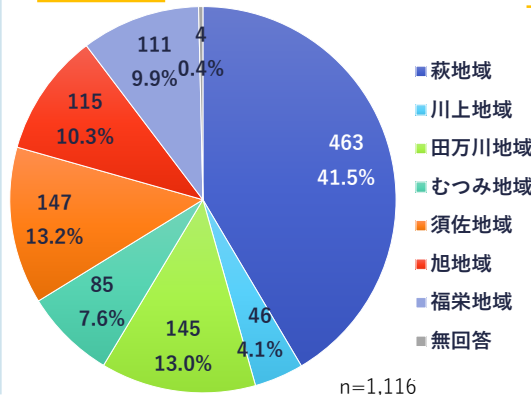


# 調査概要

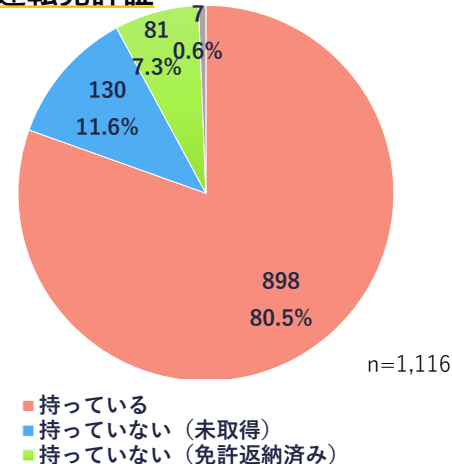
項目	内容
調査期間	2024年7月1日（月）～7月31日（水）
調査方法	<p>《調査票の配布》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 設問内容確定後、調査票を作成する。</li> <li>② 発送用封筒に宛名ラベルシールを貼り付け、調査票と返信用封筒と封入する。</li> <li>③ 対象者へ発送しアンケートに回答してもらう。</li> <li>④ 同封の返信用封筒にて調査票を回収する。</li> <li>⑤ 回答の集計・分析を行う。</li> </ol> <p>《Webアンケート》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① Webアンケートフォームを作成する。</li> <li>② 回答用のQRコードを作成し、広報「萩」、バス車内や公共施設において掲載する。</li> <li>③ QRコードをスマートフォンまたはタブレット等で読み取り、アンケートに回答してもらう。</li> <li>④ 回答期間終了後、回答の集計・分析を行う。</li> </ol>
調査項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 居住地域</li> <li>・ 個人属性</li> <li>・ 外出頻度</li> <li>・ 公共交通の利用頻度</li> <li>・ 外出行動の実態（買い物／通院／それ以外）</li> <li>・ 公共交通に対する満足度</li> <li>・ 鉄道／路線バス／まあるバスの不満点</li> <li>・ 東萩駅の交通結節点機能の改善点</li> <li>・ 今後の地域公共交通の在り方</li> <li>・ 必要な施策</li> <li>・ 自由意見</li> </ul>

項目	内容
調査対象	<p>「調査票の配布」及び「Webアンケート」は、それぞれ以下の方を対象とする。</p> <p>《調査票の配布》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 無作為抽出された65歳以上の市民2000人</li> </ul> <p>※萩市の総人口は43,877人（令和4年度統計萩）のうち、44.5%（19,537人）は65歳以上の高齢者である。また、公共交通が不便な中山間地域では高齢化率が50%～の地域が多い。移動実態把握の必要性や公共交通の利用可能性が高いと考えられる65歳以上の方を対象に調査票を配布。</p> <p>《Web》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全市民（広報「萩」、バス車内や公共施設に回答用QRコードを掲示することにより周知）</li> </ul>
回答数	1,116票（郵送回収；1,066票、Web；50票）

◆居住地



◆運転免許証





## 現状等整理

### ①移動実態

- 運転免許証は8割以上が所持し、その内9割強が日常的に運転している (P3)
- 免許返納済の方は約7%に留まり、免許返納想定年齢は80歳以上が約半数、返納を考えていない方も約半数である (P3)
- 買い物目的の移動頻度は、「週に1、2日」が最も多い (P6)
- 買い物目的の移動における自宅出発時刻は9時～10時台が最も多く、帰宅時刻は11時～12時台を中心に夕方まで幅広く分布している (P7)
- 通院目的の移動の約70%が自家用車（自身で運転）、約16%が家族等の送迎で移動しており、多くの方が自家用車移動に依存している反面、公共交通利用はそれぞれごく僅かである (P11)

### ②公共交通に対するニーズ

- JR、路線バスに対する不満としては「運行本数が少ない」や「乗りたい時間に運行が無い」といった運行の充実度に関する不満が多い (P15、16)
- まあーるバスに対する不満点について、令和4年に運行経路を8の字に再編したものの、依然「ルートが長く移動に時間がかかる」が最も多く挙げられている (P16)
- 東萩駅の交通結節点機能の改善点について、「鉄道とバスのダイヤを乗り継ぎやすいよう調整する」、「駅で鉄道に乗り換えられるように駐車場を整備する」の意見が均衡しており、ソフト面の改善と共に、ハード面の整備の必要性がある (P17)
- 今後の公共交通の行政負担を含めたあり方について、自力での移動が困難な方のために市全体として公共交通を充実させるべきとの意見が最も多い反面、行政負担については、現行維持を望む声が多く、相反する結果となっている (P18、19)
- 高齢者への免許返納に資する施策が最も求められており、公共交通の情報提供や輸送資源の最大限活用に対する施策も求められている (P20)

## 2. 高校生アンケート

---



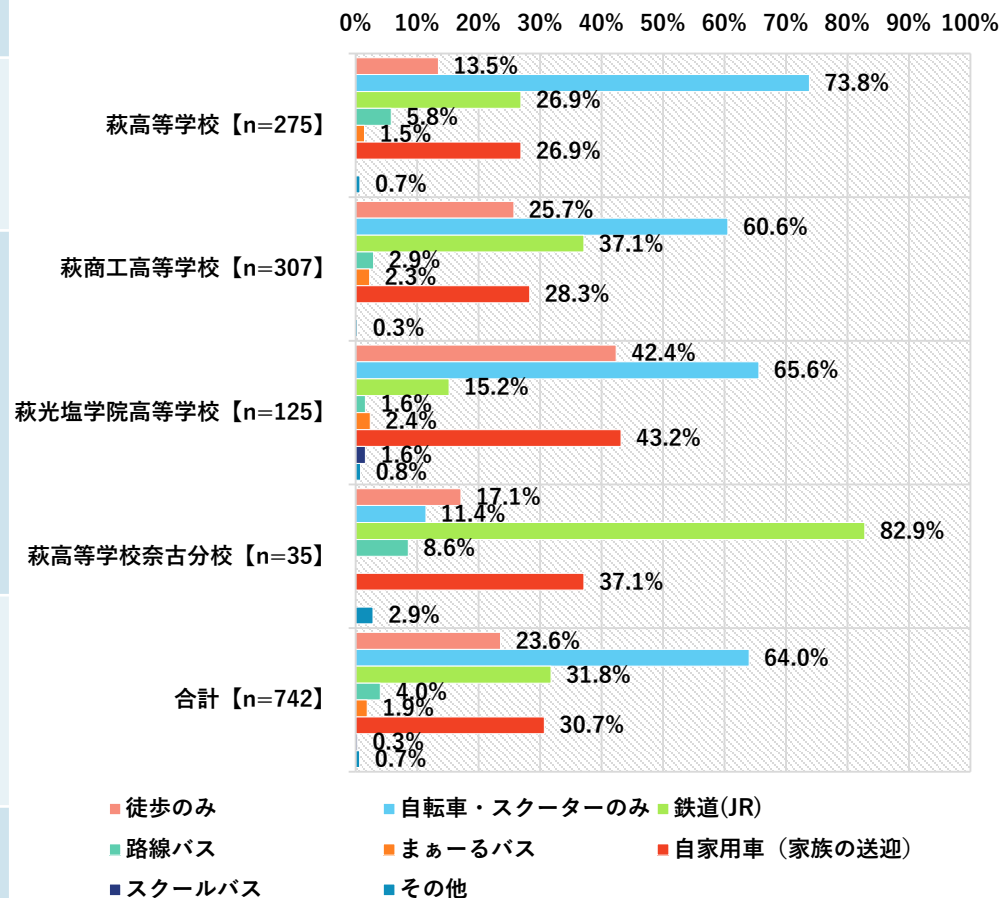


# 調査概要

## ◆調査概要

条件	内容
調査期間	2024年7月1日（月）～7月19日（金）
調査対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>萩商工高等学校</li> <li>萩高等学校</li> <li>萩光塩学院高等学校</li> <li>萩高等学校奈古分校</li> </ul>
調査項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者の属性（学校／学年／部活動への所属／性別／居住地）</li> <li>通学時の交通手段（主な移動手段／送迎状況／登下校の時刻／通学手段の満足度）</li> <li>公共交通に対する意見（JRに対する意見・不満点／路線バスに対する意見・不満点／まあるバスに対する意見・不満点）</li> <li>休日の外出（目的／目的地／移動手段）</li> <li>その他ご意見・ご要望</li> </ul>
調査方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>Webアンケート回答用QRコードを付した依頼文を各校へ送付</li> <li>依頼文を各クラスで掲示または配布</li> <li>依頼文のQRコードをスマートフォンまたはタブレット等で読み取り</li> </ol>
回答者数	合計：742人 萩商工高等学校：307人 萩高等学校：275人 萩光塩学院高等学校：125人 萩高等学校奈古分校：35人

## ◆高校×交通手段





## 現状等整理

### ①属性・移動実態

- 各校共に萩市内の居住者が多いが、萩高校と萩商工高校は長門市からの通学者が一定数存在する（P5）
- 萩市内から通学している学生の約2割は旧萩市以外の地域からの通学者である（P5）
- 通学手段は、「自転車・スクーターのみ」が各校多いが、奈古分校、萩商工は鉄道通学の割合も多い（P6）
- 送迎区間は自宅から学校（または学校から自宅）の割合が最も高いが、萩高等学校や萩商工高等学校など鉄道（JR）の利用が多い高校では、自宅から駅（または駅から自宅）の割合も3割程度存在する（P7）

### ②公共交通に対するニーズ

- JRに対する不満点として、「待ち時間を快適に過ごせる場所がない」「登下校の時刻と鉄道の運行時刻があっていない」が多く、朝8時台萩市内着や夕方18時台萩市内発に対応した便が無い（P8、15）
- 萩高等学校および萩商工高等学校では駅の「自転車置場が狭い」という不満点が多い（P13）
- 路線バスに対する不満点として、「本数が少ない」「自宅からバス停が遠い」「待ち時間を快適に過ごせる場所がない」が多い（P14）



### 3. 中学生保護者アンケート

---



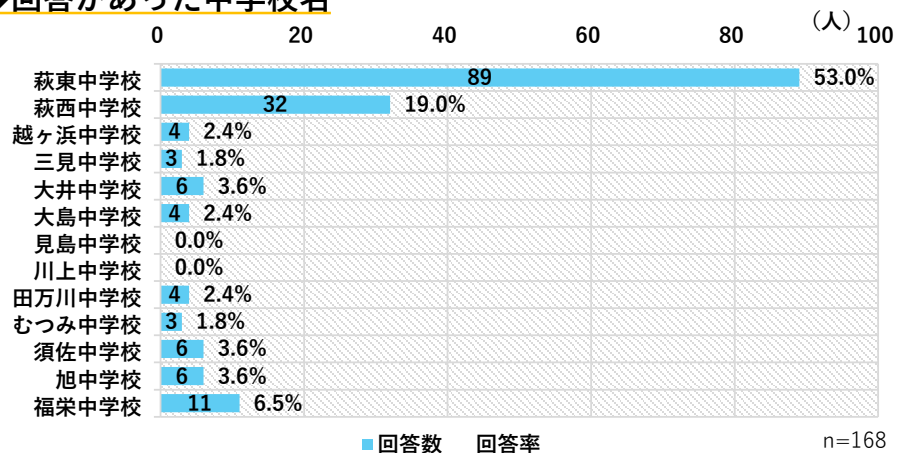


# 調査概要

## ◆調査概要

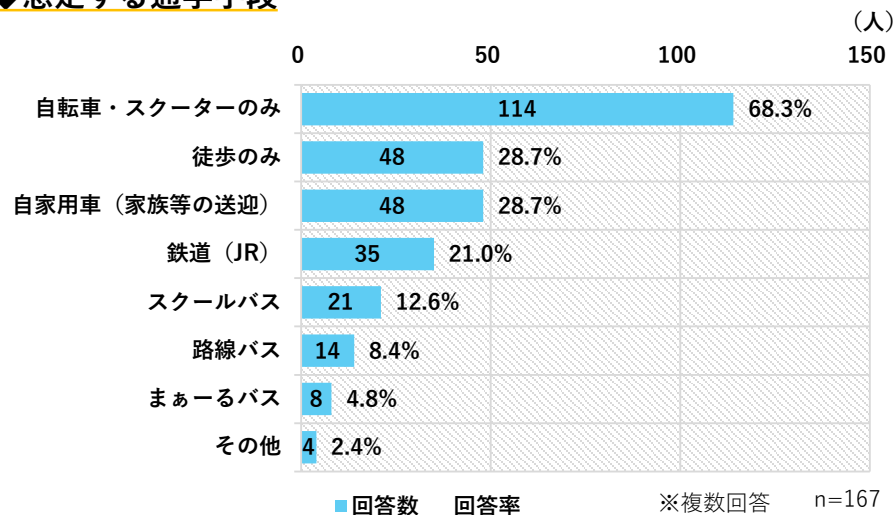
条件	内容
調査期間	2024年7月1日（月）～7月19日（金）
調査対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>下記の学校に通う中学3年生の保護者</li> <li>萩東中学校／萩西中学校／越ヶ浜中学校／三見中学校／大井中学校／大島中学校／見島中学校／川上中学校／田万川中学校／むつみ中学校／須佐中学校／旭中学校／福栄中学校</li> </ul>
調査項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者の属性（通学している学校／性別）</li> <li>卒業後について（卒業後の進路／進学予定地／進学先の決定に際し重要視すること）</li> <li>下宿の予定について（下宿の有無／下宿する理由）</li> <li>想定する通学手段について（通学手段／自家用車を利用する場合の送迎区間）</li> <li>公共交通に対する不満点・懸念点</li> <li>導入・改善してほしいサービス</li> <li>その他ご意見・ご要望</li> </ul>
調査方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>学校の保護者一斉メール配信機能「マチコミ」を利用</li> <li>メールにて依頼文と回答リンク（またはQRコード）を保護者あてに各校から配信し、そこから端末でWebアンケートに回答</li> <li>教育委員会を經由して各学校へアンケートの協力を依頼するため、事前に市より教育委員会へ共有した</li> </ol>
回答者数	168名

## ◆回答があった中学校名



※中学3年生が在籍していない中学校あり

## ◆想定する通学手段





## 現状等整理

### ① 高校進学後に想定される通学状況

- 進学予定地は萩市内が約8割を占めている (P2)
- 進学先を決定する際には、「公共交通で通学できること」が重要視されている (P3)
- 想定する主な通学手段は、徒歩や自転車といった自力での手段を除くと「自家用車（家族の送迎）」「鉄道（JR）」が多く、路線バスの利用はほとんど検討されていない (P5)
- 自家用車での送迎区間は、自宅⇔学校区間がほとんどである (P5)

### ② 公共交通に対するニーズ

- 交通手段の「本数が少なく待ち時間が長い」ことを不満点・懸念点に感じている保護者が多い (P6)
- 「通学に利用しやすい市内循環バス」「学校と最寄り駅を結ぶバスの運行」といった運行の充実度を求める意見に加え、「バスや鉄道の定期券購入補助」も求められている (P7)

## 4. 観光来訪者アンケート

---

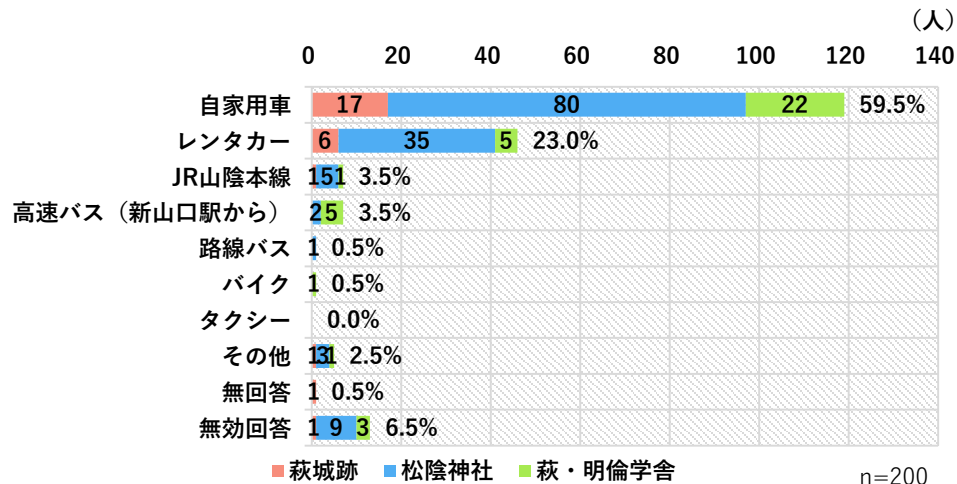




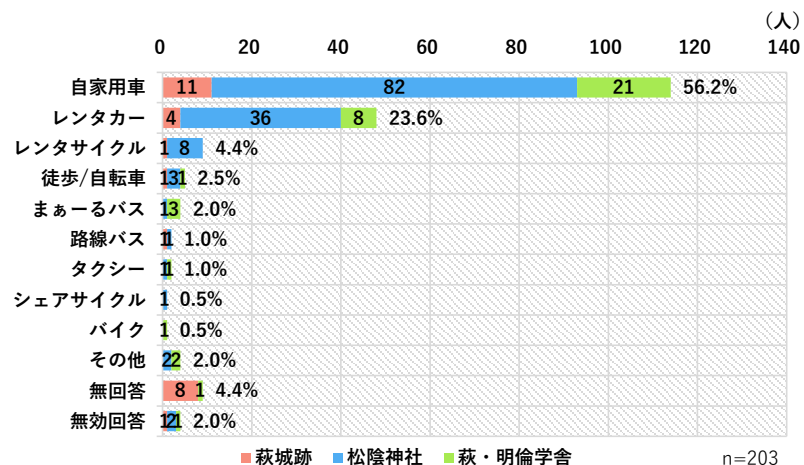
# 調査概要

条件	内容
調査期間	2024年8月3日（土）
調査箇所	① 萩城跡 ② 松陰神社 ③ 萩・明倫学舎
調査項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>居住地</li> <li>萩市内で訪れた・訪れる予定の施設</li> <li>移動手段（萩市まで／萩地域内／市内他地域）</li> <li>公共交通での来訪検討有無、検討した結果自家用車できた理由</li> <li>萩市内の観光において問題に感じた点</li> <li>萩市の観光時に利用したいサービス</li> <li>観光情報や移動手段の情報の入手先</li> <li>その他、萩市内の観光におけるご要望</li> <li>属性（性別／年齢／自動車運転免許の有無／グループの人数／同行者の属性／萩市内での宿泊の有無）</li> </ul>
調査方法	各施設来訪者に対し、調査員が聞き取りで調査を行う。外国の方に対しては英語の調査票を渡し、記入頂いた
回答票数	合計：203票 萩城跡：27票 松陰神社：137票 萩・明倫学舎：39票

## ◆移動手段（萩市まで）



## ◆移動手段（萩地域内）





## 現状等整理

### ① 来訪者の属性・観光移動実態

- 山口県内からの来訪者が最も多く次いで、福岡県、東京都、神奈川県の順である（P2）
- 回答者の約9割が日常的に運転すると回答している（P9）
- 萩市までの移動手段は約6割が自家用車、約2割がレンタカーであり、鉄道やスーパーはぎ号はごくわずかである（P4）
- 市内の移動手段も自家用車やレンタカー利用が圧倒的であり、まあーるバス利用はわずか2%に留まっている（P4）
- 観光・移動情報の事前の入手先は観光施設のHPが最も多い（P8）

### ② 市内外の移動に対するニーズ

- 公共交通を移動手段として検討したものの結果的に自家用車を利用した理由として、観光周遊行動の容易さの回答が多く、次いで交通費の高さや公共交通の情報不足を挙げる声が多い（P5）
- 観光時に利用したいサービスの意向は、観光地を周遊する・観光地に停車するバスの意向が最も高く、次いでシェアサイクル等のシェアリングモビリティの充実の順である（P7）

# 5. 路線バス乗り込み調査

---



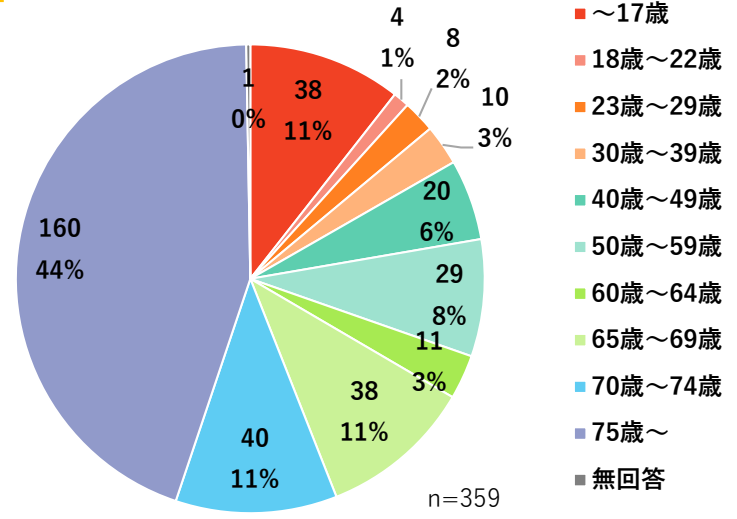


# 調査概要

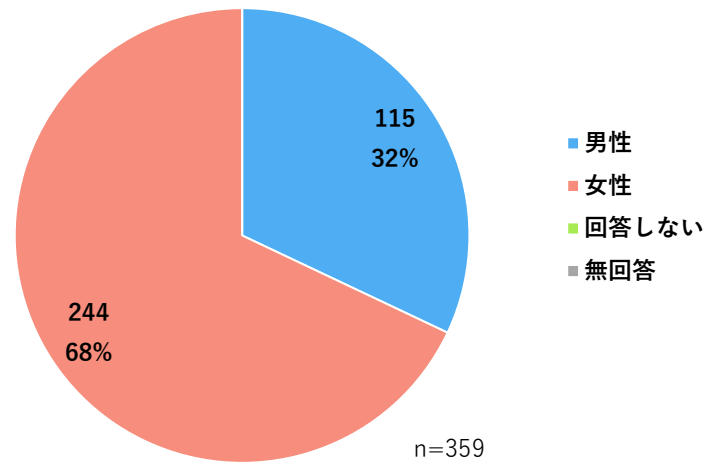
## ◆調査概要

条件	内容
調査日	2024年7月12日（金）
調査対象路線	<ul style="list-style-type: none"> <li>萩市内完結路線</li> <li>萩商工高校前～奈古駅前</li> <li>東萩駅前～津和野BC</li> </ul>
調査項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者の属性（性別・年齢等）</li> <li>利用実態（OD・利用頻度・利用目的等）</li> <li>再編後の満足度</li> </ul>
調査方法	調査員による聞き取りアンケート（乗込み）。調査票を持った調査員が乗客一人一人を回り、設問に沿って聞き取りを行う。
乗車人数・アンケート回答者数	359名

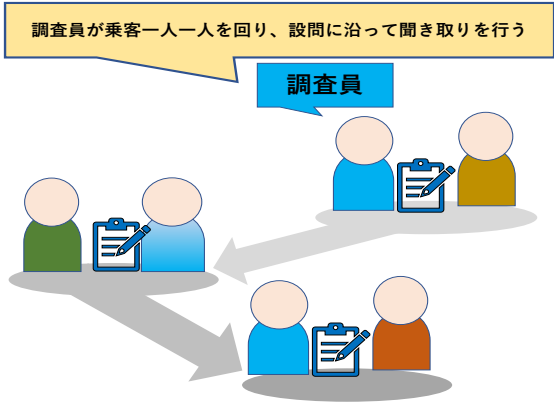
## ◆年齢



## ◆性別



## ◆調査方法のイメージ







## 現状等整理

### ① 利用状況

- 「萩商工高校前～奈古前」系統では、早朝・夕方の時間帯で通勤や通学目的、午前中～午後を中心とした萩市内への買い物や通院等の用務移動が多く見受けられる（P2、P11、P12）
- 「東萩駅前～津和野BC（快速）」系統は、長距離の運行区間に対し、利用されている便や利用区間は限定的である（P3、P21、P22）
- 調査対象の路線バス利用者の利用目的の大半は買い物や通院であり、通学利用は1割に留まっている（P4）
- 利用は午前中を中心とした特定便に集中している傾向がある

### ② 利用者属性

- 後期高齢者、女性の利用者が非常に多く、バスの利用頻度は週3～4日以上の高頻度利用者が約4割、次いで週1～2日の利用頻度の順である（P6～7）
- 運転免許証を持っていない利用者が7割超である（P8）
- HAGICAを含む現金利用者が7割超であり、交通系ICカードの利用は約1割と少数に留まっている（P8）
- バスの代替手段の有無について、約1/4の利用者が代替手段が無いと回答し、約3割の利用者が車（送迎）と回答している（P9）

## 6. 交通事業者ヒアリング

---





## ヒアリング結果（概要）

### 《鉄道（今後実施予定）》

### 《路線バス事業者（3社）》

- 各社共に運転者が不足し、黒字である貸切バスの運行を止む無く削減して路線バスを維持している状況であり、路線バスの単純な増便は難しい状況である。
- 高速バス「スーパーはぎ号」は赤字が続いており、利用状況からコロナ禍前と比較して減便している。
- 運転者の平均年齢は高齢化しており、持続可能な路線バス運行のためには運転者の待遇を改善する必要がある。
- 路線バス事業者によっては行政による運行補助のみでは赤字となっており、改善が求められている。
- 移動総量が減少しているため、現状に応じた路線の再編は今後の課題である。
- ICカードを導入したため、高齢者福祉施策（HAGICA）も含めICカードの利用率の向上による移動実態データ取得が課題。
- 各種DX施策（ICカード、GTFS-JP、バスロケーションシステム）は維持費も必要であり、費用負担が重い。

### 《タクシー事業者（3社）》

- 各社共にコロナ禍以降の生活様式の変化や運転者の退職や高齢化により、日中や夜間のタクシー需要に対して供給力が不足している。
- 運転者を募集するも、タクシードライバーの悪いイメージが少なからず残っており、待遇改善も難しい状況で、求人に対する応募が少ない状況が続いている。
- タクシーを利用する観光者は、通常の観光ピーク時期とずれた時期の利用が多い傾向である。
- タクシードライバーは二種免許を誇りに思っており、タクシー事業者としても安全・運行管理を徹底している。

### 《航路事業者》

- 船員の入れ替わりが激しく、船員不足も全国的な課題となっており、船員確保が難しくなることが予想される。
- 離島側が運航拠点であり、新たな雇用には離島側の居住環境の整備が必要である。
- 朝は離島住民の通院・買い物需要があり、港からのタクシー乗継が多く、帰りは港までまっ一歩バス利用という方もいる。

## 6. 関係部署ヒアリング

---





## ヒアリング結果（概要）

### 《医療関係部署》

- 旧町村部の診療所へのアクセス確保は引き続き必要である。（独自の送迎は無し）
- オンライン診療については実証中である。

### 《社会福祉協議会》

- 市内の社会福祉法人施設による送迎運転手について、確保が課題と聞いている。
- 社協保有のマイクロバスについても運転手確保が難しく、2台中1台のみの活用となっている。
- 市内各地域でSC協議体を組織し生活福祉課題を議論しており、介護保険要支援1,2相当の方向けの移動支援を行っている地域は複数存在するが、高齢者がより高齢の方を支援する構図となっており、持続可能性に課題がある。
- 近年は高齢であっても仕事をしている方も多く、担い手確保はより難しくなっている。
- はぎファミリー・サポート・センター事業は大半が旧萩地域の利用であり、支援学校通学バス乗場への送迎や児童クラブ・塾への送迎等の依頼があるが、援助会員は高齢者がほとんどである。

### 《観光関係部署・観光協会》

- コロナ禍前と比較して、旅行形態の変化から、外国人含めてレンタカー利用が増えている印象である。
- 萩明倫学舎を観光の起点とし、そこから各観光施設へ周遊する観光形態を想定しており、それに必要なまゝ一泊の宿泊施設⇄中心部食事処間のバスやタクシー、シェアサイクルを充実させることが課題。
- 移動に課題があり、宿⇄中心部の送迎を行っている施設はあるが、帰りの送迎が難しいと聞いている。

### 《教育委員会事務局》

- スクールバスは川上地域以外は児童生徒のみの利用であるが、一般客の混乗に際し法的・補助金的な制約はないものと考えている。
- 車両管理をスクールバス運行受託者に依頼している地域とそうでない地域がある。
- スクールバスは学校利用が最優先であり、急な下校や学校行事に伴う利用等がある。

### 《商工会議所》

- 宿泊業や観光業、医療機関の一部も商工会議所会員である。
- 商工会議所や会員事業所が、商業等と公共交通とが連携したサービスを提供している例は聞いたことが無い。
- 人口減少・流出に伴い全体的に担い手不足である中、複数旅館において宿泊客の荷物を共同で輸送する事例について聞いたことがあるが、共同の送迎については聞いたことが無い。